

プロジェクト事業進捗報告書 1：深井善雄／副総括・住民組織化
 成果（期間：10/2004～2/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
2 水管理委員会が適正に運営される	2.2 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される	2-1 グループ3-2に対してASUFOR啓蒙普及をDEM本局、地方職員、先進サイトメンバーによって実施する	・交通事情が悪いサイトに対しては昼間の上映会実施で対応した ・インパクト調査については9月末および12月中旬において、実施し、インテリム2において報告する	・シネバス上映についてはサイトの事情により、実施できなかったサイトがあった ・それ以外の項目は当初の目標を達成した
	2.5 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる	2-2 第1,2,3-1村におけるASUFOR定着度を確認する		
	2.6 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する			
	2.7 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が関与される			
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4.3 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-1 住民の生産活動への参加状況をモニタリングする		対策 事前通知の徹底により、シネバス上映会の実施を目指す
	4.4 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-2 住民の収入の向上度合いを確認する		
5 対象サイト住民の安全な水に関わる衛生習慣が改善される	5.1 各サイトのシネバス上映会に一定以上の住民が参加する	5-1 第3-1グループに対して衛生啓蒙普及研修が実施される 5-2 グループ1から順次シネバスを開始する 5-3 年度後半の水場の環境整備計画が立案し、実施する 5-4 インパクト調査により、住民の理解度を確認する		
	5.2 住民の保健衛生意識に関する理解度が向上する			

プロジェクト事業進捗報告書 2：深井善雄／副総括・住民組織化
 成果に向けての事業進捗状況（期間：10/2004～2/2005、PDM 成果）

事業進捗状況		期間中直面した問題					次段階の目的と活動	
活動	予定	10	11	12	1	2	特に問題なし	(目的) ・ ASUFOR 啓蒙普及成果の検証（モニタリング体制確立） ・ 住民による生産活動多様化活動実施支援 ・ 住民生活の環境向上支援
	実施	10	11	12	1	2		
2-(1) グループ3-2 に対して ASUFOR 啓蒙普及する	予定→						
	実施	————→						
2-(2) 第 1,2 グループに対してモニタリングを実施する	予定→						
	実施	————→						
4-(1) 営農、畜産事業のための住民参加を支援する	予定→						
	実施	————→						
4-(2) 対象サイトへのインパクト調査を実施する	予定→	→				(活動プログラム) ・ ASUFOR 啓蒙普及モニタリング体制の確立、実施 ・ 保健衛生教育の実施 ・ 生産活動多様化プログラム活動の継続支援
	実施	————→		————→				
5-(1) 第 3-1 グループに対して衛生啓蒙普及研修を実施する	予定→						
	実施	————→						
5-(2) 対象サイトに対してシネバス上映会を実施する	予定→	→				
	実施	————→		————→				
カウンターパートへの技術移転進捗状況								
地方職員を正式にカウンターパートとして採用されたことから、現場との連携が密になり、効果的な活動が実施できるようになった。また、地方職員も活動に対する意識が高まり、技術習得に対する意欲も高い。すでに、2つのサイトでは独自に ASUFOR 啓蒙普及を開始しており、実績も芽生え始めている。そして、その結果は DEM が目指す ASUFOR 全国展開の実現に向けて、大きく寄与するものと考えられる。								

プロジェクト事業進捗報告書1：永沼俊道／水資源
 成果（期間：4/2004～9/2004）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定されていた目標を達成できなかった場合とその原因
3. 水利用ガイドラインに沿った水利用が行なわれる。	3-1. 対象サイトで月に1度の割合で井戸の揚水量が検査される。	・セネガルにおける水理地質的な特徴と一般的な水源井の特徴について調査を行なう。	DGRE に整備されている既存資料・データを収集した。	対策 インパクト（プラス/マイナス） 期間内に実施された DGPRE との共同作業によって、本プロジェクトにおける水源井に係わるDEMとDGRE連携の重要性が再認識され、地下水モニタリングシステムを構築に係わる具体的な協議が継続された。
	3-2 対象サイトで年に1度の割合で水質が検査される。	・対象サイト及びその周辺の水源井に関する実態調査を行い地下水ポテンシャルの検証を行う。	対象サイトグループ3における検証を行なった。	
		・地下水ポテンシャルのモニタリングシステムを構築に係わる準備作業を行なう。	DGRE で現在行なわれているモニタリングの実態を把握し、地下水モニタリング業務マニュアルを改訂した。	
	3-1. 対象サイトのオペレーターと水管理委員が水利用ガイドラインについて説明できる。	地下水ポテンシャルの検証作業結果をもとに、対象サイト住民により実施される水利用管理に供するガイドラインを作成する。	対象サイトグループ2に関し、住民の理解を考慮しビジュアルな水利用ガイドラインを作成した。	

プロジェクト事業進捗報告書2：永沼俊道／水資源
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/004～9/2004、PDM 成果）

事業進捗状況									期間中に直面した問題	次段階の目標と活動
活動	予定	4	5	6	7	8	9			
	実施	4	5	6	7	8	9			
3-1 対象サイトで地下水ポテンシャルを検証する。	予定		→						
	実施			————→						
3-2 井戸更正に係る維持管理本部スタッフの能力を向上させる。	予定		→						
	実施			————→						
3-3 対象サイトで地下水モニタリングシステムを強化・構築する。	予定		→						
	実施			————→						
3-4 需給バランスに基づいた水利用に関するガイドラインを作成する。	予定		→						
	実施			————→						
カウンターパートへの技術移転進捗状況										(目的) ・対象サイトでの適正な水利用を図る体制作りの確認 (活動プログラム) ・地下水モニタリングシステムの確認 ・対象サイトグループ3の水利用ガイドラインの作成 ・井戸更生作業に関わる井戸カメラの操作・使用状況の確認
水資源計画管理局（DGPRE）セネガルの地下水モニタリングを実施しており、DGPREより選定されたカウンターパートは、担当分野に関して十分な知識・経験を有している。2004年8月に、約3週間のカウンターパート本邦研修における、日本のODA概要とアフリカ・セネガルに対する取組み、プロジェクト管理、住民参加型給水事業、プロジェクトのモニタリング及び評価、各関連機関の活動視察を通じて、本プロジェクトで指導的役割を担う能力を更に深めた。										

プロジェクト事業進捗報告書1：永沼俊道／水資源
 成果（期間：10/2004～2/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定されていた目標を達成できなかった場合とその原因
1. 行政、村落住民および民間業者の連携による給水施設維持管理システムが構築される。	1-4 対象地域で行政側により年に1回の割合で水質が検査される	DGPREの作成するモニタリング報告書の解析	DGPRE 毎年水質検査を実施していることが確認された。プロジェクト側より解析に関する改善を提案し、改善の為の協議が継続された。	
3. 水利用ガイドラインに沿った水利用が行なわれる。	3-1. 対象サイトで月に1度の割合で井戸の揚水量が検査される。	オペレータに運転を記録するように指導する。	グループ1およびグループ2のサイトのオペレータに対し日常業務における揚水量の記録についての指導を行った。	対策
	3-2. 対象サイトのオペレーターと水管理委員が水利用ガイドラインについて説明できる	対象サイトのオペレーター、及び水管理委員会に説明する。	対象サイトグループ1、2に対し、水利用ガイドラインに沿った水利用に関する説明を行った。	インパクト（プラス/マイナス） DGPREの地下水モニタリングシステムの現状について再認識が図られ、改善の為の協議が行われた。

プロジェクト事業進捗報告書2：永沼俊道／水資源
 成果に向けての事業進捗状況（期間：10/004～2/2005、PDM 成果）

事業進捗状況								期間中に直面した問題	次段階の目標と活動			
活動	予定	10	11	12	1	2	3	国内支援	(目的) ・ 対象サイトでの適正な水利用を図る体制作りの確認 ・ 井戸更正技術の運用を			
	実施	10	11	12	1	2	3					
3-2 井戸更正に係る維持管理本部スタッフの能力を向上させる。	予定→									(活動プログラム) ・ DGPRE モニタリング報告書の解析とそれに対する提言。 ・ 対象サイトグループ3の水利用ガイドラインに沿った水利用の指導 ・ 井戸更生作業に関わる井戸カメラの操作・使用状況の確認	
	実施	→										
3-3 対象サイトで地下水モニタリングシステムを強化・構築する。	予定→	→								
	実施	→										
	予定											
	実施											
	予定											
	実施											
カウンターパートへの技術移転進捗状況												
水資源計画管理局（DGPRE）セネガルの地下水モニタリングを実施しており、DGPREより選定されたカウンターパートは、担当分野に関して十分な知識・経験を有している。プロジェクト側よりDGPREの年次報告内容や3局（DEM・DGPRE・DH）による地下水モニタリングシステムの強化に関する提言について、カウンターパートを中心として協議を継続している。												

プロジェクト事業進捗報告書1：井上 茂／村落開発1（営農）
 成果（期間：4/2003～9/2004）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4.1 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①TAIBA NDIYAE において営農圃場の土壌作りを始める	左項についてすべて予定とおり実施された	とくになし
	4.2 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②TAIBA NDIAYE において活動を実施するための資機材が投入される(倉庫も建設)		対策
		4-③MOUKH MOUKH において営農が開始される		なし
		4-④MOUKH MOUKH において活動を実施するための資機材、施設が準備される		効果（プラス/ マイナス）
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 収入向上プログラムの具体化が進むにつれ、住民の意識が高まってきている ・ 畜産事業が順調に推移しているため、JICA の信頼は高まっている ・ 今年、MOUKH MOUKH では降雨が少なく、一般の農業収入への影響が懸念される

プロジェクト事業進捗報告書2：井上 茂／村落開発1（営農）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2004～9/2004、PDM 成果）

活動	事業進捗状況							期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	4	5	6	7	8	9		
4(1) TAIBA NDIYAE において営農事業に必要な資機材、施設を整える	予定							カウンターパートは配置されているものの、局が異なるため、調整が困難である。	(目的) ・ 住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム) ・ 生産活動多様化プログラム活動の継続
	実施								
4(2) TAIBA NDIAYE において営農事業を開始する	予定								
	実施								
4(3) MOUKH MOUKH において営農事業に必要な資機材、施設を整える	予定								
	実施								
4(4) MOUKH MOUKH において活動を実施するための体制を決定する	予定								
	実施								
カウンターパートへの技術移転進捗状況									
カウンターパートとの連携が弱いことも原因となっているが、基本的に現在技術移転している対象はカウンターパート以上に地元住民に重点を置いている。今後は、プロジェクトの成果をカウンターパートに見せつつ、技術移転を図って行きたい。									

プロジェクト事業進捗報告書1：井上 茂／村落開発1（営農）
 成果（期間：10/2004～2/2005）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4.3	水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	左項についてすべて予定とおり実施された	とくになし
	4.4	生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する		
	4-①TAIBA NDIYAE	において営農開始する		
	4-②TAIBA NDIYAE	において活動を実施するための資機材が投入される		
		4-③MOUKH MOUKH	において営農が開始される	
				対策
				なし
				効果（プラス/ マイナス）
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年、MOUKH MOUKH ではバッタの被害を受け、第一回目の収穫に大きな影響が出た ・ MOUKH MOUKH 収穫はバッタのため断念となったが、収穫までこぎつけたという自信は今後の住民のやる気を引き出した

プロジェクト事業進捗報告書2：井上 茂／村落開発1（営農）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：10/2004～2/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況						期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	10	11	12	1	2		
4(1) TAIBA NDIYAE において営農事業を開始する	予定	→	→	→	→	→	・カウンターパートとして、地方職員が配置され、TAIBA NDIYAE をフォローしている職員は非常にモチベーションが高い、一方 MOUKH MOUKH における職員の動きは鈍い。 ・女性参加者は家事との兼ね合いで、時間が制約される ・バッタの発生で、MOUKH MOUKH の収穫が台無しとなった	(目的) ・住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム) ・生産活動多様化プログラム活動の継続 ・農業と生活と水の関連性を普及し、水の利用の重要性を啓蒙普及していく
4(2) MOUKH MOUKH において営農活動を開始する	実施	→	→	→	→	→		
カウンターパートへの技術移転進捗状況 カウンターパートのやる気に差異があるものの、配置も完了し、連携が始まっている。ただ、カウンターパートへの技術移転と同時に機十移転弱いことも原因となっているが、基本的に現在技術移転している対象はカウンターパート以上に地元住民に重点を置いている。今後は、プロジェクトの成果をカウンターパートに見せつつ、技術移転を図って行きたい。								

プロジェクト事業進捗報告書 1：浜岡真紀／社会・ジェンダー配慮
 成果（期間：4/2003～9/2004）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定されていた目標を達成できなかった場合とその原因
2. 水管理委員会が適正に運営される。	2-5 全サイトにおいて事務局女性メンバーの割合が少なくとも1/3を占める。	各プロジェクト活動におけるジェンダー配慮に関する留意点の確認とプロジェクトにおける推進状況の確認・分析。	対象村落における生産活動やコミュニティ活動におけるジェンダー配慮の有無と実体、男女別参加状況、開発に関するニーズ調査等の調査分析を行なった。	
	2-6 代表者委員会のメンバーが全サイトにおいて男女同数となる。			対策
	2-7 全ての会合は少なくとも50%の女性の出席を得る。			
				インパクト（プラス/マイナス） 実施機関であるDEMにおいてジェンダー配慮の重要性が再認識され、ASUFOR 啓蒙普及などの今後のプロジェクト活動において推進してゆくことが確認された。

プロジェクト事業進捗報告書 2：浜岡真紀／社会・ジェンダー配慮
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2003～9/2004、PDM 成果）

事業進捗状況								期間中に直面した問題	次段階の目標と活動
活動	予定	4	5	6	7	8	9		
対象サイトグループ3-1における「社会ジェンダー調査」の実施。	予定			▶				(目的) ・グループ3-2のASUFOR 啓蒙普及活動における社会ジェンダーに関する啓蒙活動の推進。 ・対象サイトにおける女性の積極的な参加等の社会ジェンダーに関する啓蒙活動の推進 (活動プログラム) ・社会ジェンダー、住民参加プログラム等のソフトに係わるデータの蓄積と共有化の促進。 ・ASUFOR 啓蒙普及活動におけるジェンダー配慮状況のモニタリングとフィードバック。
	実施					▶			
ASUFOR 啓蒙普及等プロジェクト活動におけるジェンダー配慮に関する推進状況の確認・分析。	予定	▶						
	実施		▶						
	予定								
	実施								
	予定								
	実施								
カウンターパートへの技術移転進捗状況 カウンターパートは、社会/ジェンダー配慮に関する知識や手法もある程度理解はしており、技術移転事項としてはコンセプトや手法をどのように実践活用してゆかが課題であった。2004年1月に約4週間に渡り実施されたカウンターパート本邦研修において、住民参加型給水事業、プロジェクトのモニタリング及び評価等に関して研鑽を積んでいる。本プロジェクトを通じて、更にプロジェクト管理等について、指導的役割を担うことが期待される。									

プロジェクト事業進捗報告書1：後藤雅哉／啓蒙普及（住民）
 成果（期間：4/2004～9/2004）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
2 水管理委員会が適正に運営される	2-1 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される	2-①グループ1,2に対してASUFOR啓蒙普及後のモニタリングを行う	左項の業務は全て、実施した	とくに問題なし
	2-2 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる	2-②第3グループのモノ1, 6サイト、に対してASUFOR啓蒙普及を行う		
	2-3 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する	2-③第3グループに対してモニタリングシートを配布し、記入方法を指導する		
	2-4 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が開きされる	2-④第3グループモノ1, 6サイトにおいてカウンター設置が設置される 2-⑤タンバクダ、コルダ、ジガンシヨール州の‘ア’リ’ト’職員に対してASUFOR啓蒙普及手法の実践的研修を行う		
				対策 とくになし
				効果（プラス/ マイナス） <ul style="list-style-type: none"> 新たな料金制度の導入により、水の節約意識が芽生え、水使用量は減少傾向にある カウンター設置のため、一時的に積立金が減ったサイトがある 比較的料金徴収が良好に推移しているサイトとそうでないサイトと差が出始めている

プロジェクト事業進捗報告書2：後藤雅哉／啓蒙普及（住民）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2003～9/2004、PDM 成果）

活動	事業進捗状況							期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	4	5	6	7	8	9		
2-① グループ3に対してASUFOR啓蒙普及する	予定		雨季が始まり、天候に左右されたり、道路状態が悪いサイトが見受けられた	(目的) ・ ASUFOR 啓蒙普及 ・ ASUFOR 定着後の成果の確認 (活動プログラム) ・ ASUFOR 啓蒙普及 ・ ASUFOR モニタリング体制の確立、実施
	実施			
2-② タンバクダ、コルダ、ジガンシヨール州の職員に対して ASUFOR 啓蒙普及手法を技術移転する	予定			
	実施			
2-③ 第1,2グループに対してモニタリングを実施する	予定			
	実施			
2-④ 第3グループサイトにおいてカウンター設置のための住民負担料金を徴収する	予定			
	実施			
2-⑤ カウンターを設置する	予定			
	実施			
カウンターパートへの技術移転進捗状況									
DEM 本局職員および地方職員の ASUFOR 啓蒙普及活動における積極的な参加は非常に評価でき、経験が積み重なると共に次ステップの活動を先読みして作業を進めるなど確実に ASUFOR 啓蒙普及技術の移転は進んでいることが伺える。									

プロジェクト事業進捗報告書 1 : 後藤雅哉 / 啓蒙普及 (住民)
 成果 (期間: 10/2004~2/2005) (成果はPDMにおける成果に同じ)

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
2 水管理委員会が適正に運営される	2.2 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される	2-①グループ1, 2, 3-1に対して ASUFOR 啓蒙普及後のモニタリングを行う 2-②第3グループのその2, 6サイトに対して ASUFOR 啓蒙普及を行う 2-③第3グループに対してモニタリングシートを配布し、記入方法を指導する 2-④第3グループその2, 6サイトにおいてカウンター設置が設置される 2-⑤タンバクダ、ジガンショール州のブリガド職員に対して ASUFOR 啓蒙普及手法の実践的研修を行う	左項の業務は全て、実施した	とくに問題なし
	2.5 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる			対策
	2.6 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する			とくになし
	2.7 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が聞かされる			効果 (プラス/ マイナス)
				<ul style="list-style-type: none"> 新たな料金制度の導入により、水の節約意識が芽生え、水使用量は減少傾向にある カウンター設置のため、一時的に積立金が減った付がある 比較的料金徴収が良好に推移しているサイトとそうでないサイトと差が出始めている

プロジェクト事業進捗報告書 2 : 後藤雅哉 / 啓蒙普及 (住民)
 成果に向けての事業進捗状況 (期間: 10/2004~2/2005、PDM 成果)

活動	事業進捗状況					期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	10	11	12	1 2		
2(1) グループ3-2に対して ASUFOR 啓蒙普及する	予定					・定額制にこだわるサイトが出ている ・民族間の問題が生じ、調整が求められるサイトが出ている	(目的) ・ ASUFOR 定着後の成果の確認 ・ ASUFOR 関連項目(マニュアル、手法等)にかかる関連ドナー間の連携促進
	実施	10	11	12	1 2		
2(2) タンバクダ、ジガンショール州の職員に対して ASUFOR 啓蒙普及手法を技術移転する	予定						(活動プログラム) ・ ASUFOR モニタリング体制の確立、実施 ・ ASUFOR 全国展開に向けた取り組み ・ 他関連プロジェクトとの連携促進
	実施						
2(3) 第1, 2, 3-1グループに対してモニタリングを実施する	予定						
	実施						
2(4) 第3グループ3-1サイトにおいてカウンター設置のための住民負担金を徴収する	予定						
	実施						
2(5) 第3グループ3-1にカウンターを設置する	予定						
	実施						
カウンターパートへの技術移転進捗状況							
DEM 本局職員および地方職員の ASUFOR 啓蒙普及活動における積極的な参加は非常に評価でき、経験が積み重なった結果、独自に任地で ASUFOR 啓蒙普及を始める職員(3名)が認められた。ASUFOR 全国展開に向けて、確実に ASUFOR 啓蒙普及技術の移転は進んでいることが伺える。							

プロジェクト事業進捗報告書1：折田 岩美／村落開発2（放牧畜）
 成果（期間：4/2004～09/2004）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4-1 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①TAIBA NDIAYA において養鶏事業の継続状況が確認される 4-②TAIBA NDIAYE において鶏卵を目的とする新規活動を開始する（同時にマニュアルも作成される） 4-③MOUKH MOUKH において飼料作物生産に関する実証調査が実施される 4-④MOUKH MOUKH の養鶏事業の継続状況が確認される 4-⑤MOUKH MOUKH において牛舎が建設され、優良品種が投入される 4-⑥乳酸加工品(ヨーグルト)の製造研修が実施される（対象住民のほかに JOCV の希望者にも研修を開放）	左項についてすべて予定とおり実施された	なし
	4-2 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する			対策
				なし
				効果（プラス/ マイナス） ・ 養鶏事業は利益を計上しており、住民の収入は向上している ・ ASUFOR では各種活動に対して特別水料金の設定に加えて、一部資金を拠出している ・ 事業の拡大に伴い、人員が不足し始め、人材育成を目的とした識字教室が始まろうとしている

プロジェクト事業進捗報告書2：折田 岩美／村落開発2（放牧畜）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2004～9/2004、PDM 成果）

活動	事業進捗状況								期間中直面した問題	次段階の目的と活動		
	予定	4	5	6	7	8	9	実施				
4-① TAIBA NDIYA において養鶏事業の評価を行う	予定				→				カウンターパートは配置されているものの、獣医であるため、利益を追求する事業に関しては有用なアドバイスを得にくい状況にある。	(目的) ・ 住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム) ・ 生産活動多様化プログラム活動のフォローアップ、継続 ・ MOUKH MOUKH における牛関連事業の継続 ・ MOUKH MOUKH における飼料生産プログラムの実証、提案		
4-② TAIBA NDIAYE において活動に必要な施設を建設する	予定				→							
4-③ TAIBA NDIAYE において鶏卵生産事業を開始する(マニュアル作成、研修、資機材購入、施設建設等)	予定				→							
4-④ MOUKHMOUKH において養鶏事業のフォローアップを行う	予定				→							
4-⑤ MOUKHMOUKH において牛受け入れ体制を整える	予定				→							
4-⑥ MOUKH MOUKH において飼料作物生産実証を実施する	予定				→							
4-⑦ MOUKH MOUKH において畜産加工品の実践研修	予定						→					
実施												
カウンターパートへの技術移転進捗状況												
カウンターパートが獣医であるため、養鶏事業等に関するノウハウはきわめて希薄である。そのため、今後は、プロジェクトの成果をカウンターパートに見せつつ、技術移転を図って行きたい。												

プロジェクト事業進捗報告書1：折田 岩美/村落開発2（放牧畜）
 成果（期間：10/2004～2/2005）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4-3 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①TAIBA NDIAYA において養鶏事業の継続状況が確認される	左項についてすべて予定とおり実施された	なし
	4-4 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②TAIBA NDIAYE において鶏卵を目的とする新規活動の継続状況が確認される 4-③MOUKH MOUKH において飼料作物生産に関する実証調査が実施される 4-④MOUKH MOUKH の養鶏事業の継続状況が確認される 4-⑤MOUKH MOUKH において優良品種が投入された継続状況が確認される 4-⑥MOUKH MOUKH において飼料木が植林される		対策 なし
				効果（プラス/ マイナス）
				<ul style="list-style-type: none"> 養鶏事業は利益を計上しており、住民の収入は向上している一方、死亡率が向上し始めており、指導を徹底する ASUFOR では各種活動に対して特別水料金の設定に加えて、一部資金を拠出している 事業の拡大に伴い、人員が不足し始め、人材育成を目的とした識字教室が始まっている

プロジェクト事業進捗報告書2：折田 岩美/村落開発2（放牧畜）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：10/2004～2/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況						期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	10	11	12	1	2		
4(1) TAIBA NDIAYA において養鶏事業の評価を行う	予定					→	カウンターパートは配置されているものの、獣医であるため、利益を追求する事業に関しては有用なアドバイスを得にくい状況にある。	(目的) ・ 住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム) ・ 生産活動多様化プログラム活動(養鶏事業)のフォローアップ、継続 ・ MOUKH MOUKH における牛関連事業の継続 ・ MOUKH MOUKH における飼料生産プログラムの実証、提案
4(2) TAIBA NDIAYE において鶏卵生産事業を継続調査する	予定					→		
4(3) MOUKH MOUKH において養鶏事業のフォローアップを行う	予定					→		
4(4) MOUKH MOUKH において牛を継続調査する	予定					→		
4(5) MOUKH MOUKH において飼料作物生産実証を実施する	予定					→		
	実施					→		
カウンターパートへの技術移転進捗状況								
カウンターパートが獣医であるため、養鶏事業等に関するノウハウはきわめて希薄である。そのため、今後は、プロジェクトの成果をカウンターパートに見せつつ、住民を中心に技術移転を図って行く。他方、ステアリングコミティーメンバーの中で畜産局のプロジェクト担当は興味を持っており、可能であれば、情報交換の場でも設けたい。								

14-3 プロジェクト事業進捗報告書
(第4年次)

プロジェクト事業進捗報告書1：石井信行／啓蒙普及（行政）
 成果（期間：4/2005～7/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定されていた目標を達成できなかった場合とその原因
1 行政、村落住民および民間業者の連携による給水施設維持管理システムが構築される。	1-1. 対象サイトで軽微な故障に関する維持管理費が100%水管理委員会の積立金から賄われる。	DEM内に下記3種の定例協議会を設置し、給水施設維持管理システム構築に向けた協議を継続する。 ・DEMプロジェクト代表者連絡協議会 ・維持管理本部長連絡協議会 ・3局(DEM・DEH・DGRE)連絡協議会	3種の協議会において地方給水事業に関するマニュアルの標準化手法、及び民間維持管理者への業務委託の具体的な手法についての協議を継続した。	
	1-2. 行政側は契約に基づいた水管理委員会と民間業者の役割に関する監理を行なう			
	1-3. 対象サイトで民間業者との維持管理契約が締結される。	民間業者側の契約準備、及び契約締結準備を継続する。		
3 水利用ガイドラインに沿った水利用が行なわれる。	3-1. 対象サイトで月に1度の割合で井戸の揚水量が検査される。	水管理委員会及びオペレータの水利用ガイドラインに関する理解度を高める。	カウンターパート及び維持管理センター職員を通じて水管理委員会及びオペレータの理解度に応じて水利用ガイドラインに関する説明を繰り返し実施した。	インパクト（プラス/マイナス） 3種の協議会を通じて給水施設維持管理システムの構築手法における知見の共有化が図られた。
	3-2. 対象サイトのオペレータと水管理委員が水利用ガイドラインについて説明できる。			

プロジェクト事業進捗報告書2：石井信行／啓蒙普及（行政）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2005～7/2005、PDM 成果）

事業進捗状況								期間中に直面した問題	次段階の目標と活動
活動	予定	4	5	6	7	8	9		
	実施	4	5	6	7	8	9		
1-1 行政、村落住民および民間業者の給水施設維持管理に関する役割分担を明確にし、各々がその内容を理解する。	予定→							
	実施	————→							
1-4 行政による啓蒙普及体制（活動の評価・モニタリングを含む）を確立する。	予定→							
	実施	————→							
3-5 啓蒙普及サイトのオペレータと水管理委員に対し、ガイドラインに沿った水利用について指導する。	予定	→	→				
	実施		→		→				
2-5 活動予定を基に水管理組合に関する	予定					○			
4-6 持続的な観水利用モデルに関するセミナーを開催する	実施					●			
カウンターパートへの技術移転進捗状況									(目的) ・ASUFORと民間業者の給水施設維持管理に関わる契約締結の推進 ・給水施設維持管理システム構築と行政側の体制に関する整備 (活動プログラム) ・地方給水事業におけるセネガル側の改革を視座に入れた維持管理体制の構築 ・地域の状況に応じた維持管理契約の推進
カウンターパートは、各種現地調査や関係機関との協議等の実施を通じて、プロジェクト活動の中で発生する様々な諸問題への対応や問題解決に取り組んでいる。第4年次においてもプロジェクト管理や調整手法等に焦点を当てた技術移転を継続して行く。									

プロジェクト事業進捗報告書1：石井信行／啓蒙普及（行政）
 成果（期間：8/2005～12/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定されていた目標を達成できなかった場合とその原因
1. 行政、村落住民および民間業者の連携による給水施設維持管理システムが構築される。	1-1. 対象サイトで軽微な故障に関する維持管理費が100%水管理委員会の積立金から賄われる。	DEM内との定例協議会を設置し、給水施設維持管理システム構築に向けた協議を継続する。	地方給水事業に関するマニュアルの標準化手法、及び民間維持管理業者への業務委託の具体的な手法についての協議を継続した。	
	1-2. 行政側は契約に基づいた水管理委員会と民間業者の役割に関する監理を行なう			
	1-3. 対象サイトで民間業者との維持管理契約が締結される。	民間業者側の契約準備、及び契約締結準備を継続する。		
3. 水利用ガイドラインに沿った水利用が行なわれる。	3-1. 対象サイトで月に1度の割合で井戸の揚水量が検査される。	水管理委員会及びオペレータの水利用ガイドラインに関する理解度を高める。	カウンターパート及び維持管理センター職員を通じて水管理委員会及びオペレータの理解度に応じて水利用ガイドラインに関する説明を繰り返し実施した。	対策
	3-2. 対象サイトのオペレータと水管理委員が水利用ガイドラインについて説明できる。			インアパクト（プラスマイナス） 給水施設維持管理システムの構築手法における知見の共有化がさらに推進された。

プロジェクト事業進捗報告書2：石井信行／啓蒙普及（行政）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：8/2005～12/2005、PDM 成果）

事業進捗状況							期間中に直面した問題	次段階の目標と活動
活動	予定	8	9	10	11	12		
1-2 行政、村落住民および民間業者の給水施設維持管理に關する役割分担を明確にし、各々がその内容を理解する。	予定→						(目的) ・ASUFOR と民間業者の給水施設維持管理に關する契約締結の推進 ・給水施設維持管理システム構築と行政側の体制に關する整備
	実施	→						
1-4 行政による啓蒙普及体制（活動の評価・モニタリングを含む）を確立する。	予定→						(活動プログラム) ・地方給水事業におけるセネガル側の改革を視座に入れた維持管理体制の構築 ・地域の状況に応じた維持管理契約の推進
	実施	→						
3-5 啓蒙普及サイトのオペレータと水管理委員に対し、ガイドラインに沿った水利用に付いて指導する。	予定→						
	実施	→						
2-6 活動予定を基に水管理組合に關する/ 4-6 持続的な観ず利用モデルに關するセミナーを開催する	予定					○		
	実施					●		
カウンターパートへの技術移転進捗状況								
対象サイトを管轄する維持管理センター長の人事異動があったが、DEM本部のカウンターパートと各地の維持管理センター長とのコミュニケーションには特に問題は発生していない。プロジェクト終了後も、研修を受けたカウンターパートを中心とした給水施設維持管理に關するプロジェクト運営・管理が進められることが期待される。								

プロジェクト事業進捗報告書 1：吉川 淳／給水施設

成果（期間：05/2005～12/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定されていた目標を達成できなかった場合と原因
1. 行政、村落住民および民間業者の連携による給水施設維持管理システムが構築される。	1-1 対象サイトで軽微な故障に関する維持管理費が100%ASUFOR積立金から賄われる	グループ3対象12サイトにおいてオペレータ再訓練を実施する。また訓練後の活動状況のモニタリングを行い、状況を把握する。	オペレータ再訓練プログラムで、日常業務の指導を行い、水道事業の運営において運転記録の重要性を再認識させた。 オペレータ活動モニタリングで、問題点を把握し、オペレータ研修プログラムに反映させた。	インパクト（プラス/マイナス） 対象サイトのオペレータに対し、個別に再訓練プログラムを実施できたことで、オペレータ業務に関する様々なケースを認識できた。今後のオペレータ育成においてこれらの知見が有効に生かされることとなる。 カオラック維持管理本部にてオペレータ研修施設が建設された。これで全国3カ所でオペレータ研修が実施可能となり、今後の地方村落給水施設オペレータ養成の効率化に大きく貢献する。

プロジェクト事業進捗報告書 2：吉川 淳／給水計画

成果に向けての事業進捗状況（期間：05/2005～12/2005）（活動はPDMにおける活動に同じ）

事業進捗状況										期間中に直面した問題	次段階の目標と活動
活動	予定	5	6	7	8	9	10	11	12		(目的) 1. 施設オペレータの維持管理能力の向上 2. ASUFOR 普及 (活動プログラム) 全国3カ所のオペレータ研修施設と研修用教材を十分に活用し、オペレータ育成を行う。
	実施	5	6	7	8	9	10	11	12		
1-1 行政、村落住民および民間業者の給水施設維持管理に関する役割分担を明確にし、各々がその内容を理解する	予定										
	実施										
1-2 給水施設の補修・改修・拡充システムを構築する（給水施設現況調査、資機材調査、関連データベース整備等）	予定										
	実施										
1-5-1 全国3ヶ所の維持管理本部セミナー施設の整備を行う	予定										
	実施										
カウンターパートへの技術移転進捗状況											
第4年次より、カオラック維持管理本部所長ラミン・ガサマが給水施設担当カウンターパートとして加わった。同カウンターパートは、同本部内に建設されるオペレータ研修施設の工事期間中、施工監理を中心になって行った。施設完成後にオペレータ育成を担うべく、指導内容の習得と指導員の選定を行った。また、3週間の本邦研修に参加し、日本の水道施設維持管理技術や水道事業の運営について学習した。 同じく給水施設カウンターパートであるタンバクンダ維持管理本部所長ムッサ・ディオップは、グループ3対象サイトオペレータの再訓練を実施した。オペレータの技術的問題点を把握し、それらをふまえた研修プログラムを計画した。											

プロジェクト事業進捗報告書：深井善雄／副総括・住民組織化
 成果（期間：4/2005～8/2005）（成果は PDM における成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
2 水管理委員会が適正に運営される	2.1 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される	2-1 第1,2,3-1村におけるASUFOR定着度を確認する	・ASUFORの稼働状況について確認し、善後策を検討した ・Taiba Ndiaye において次ステップにおける事業展開を協議した ・交通事情が悪いサイトに対しては昼間の上映会実施で対応した ・インパクト調査については9月末および12月中旬において、実施し、インテリム2において報告する	・ASUFORが円滑に機能していないサイトがあった ・シネバス上映についてはサイトの事情により、実施できなかったサイトがあった ・それ以外の項目は当初の目標を達成した
	2.2 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる			
	2.3 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する			
	2.4 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が関与される			
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4.1 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①住民の生産活動への参加状況をモニタリングする		対策 事前通知の徹底により、シネバス上映会の実施を目指す 効果（プラス/マイナス） ・従量制への移行により、節水し始めている ・住民総会等を通じて、住民の水に関する管理意識が芽生え始めている ・保健衛生教育、シネバスの効果として、水場の環境整備がなされ始めている
	4.2 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②住民の収入の向上度合いを確認する		
5 対象サイト住民の安全な水に関わる衛生習慣が改善される	5.1 各サイトのシネバス上映会に一定以上の住民が参加する	5-①第3-1グループに対して衛生啓蒙普及研修が実施される		
	5.2 住民の保健衛生意識に関する理解度が向上する	5-②グループ1から順次シネバスを開始する 5-③年度後半の水場の環境整備計画が立案し、実施する 5-④インパクト調査により、住民の理解度を確認する		

プロジェクト事業進捗報告書2：深井善雄／副総括・住民組織化

成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2005～8/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況						期間中直面した問題 特に問題なし	次段階の目的と活動 (目的) ・ASUFOR 啓蒙普及成果の検証(モニタリング体制確立) ・住民による生産活動多様化活動実施支援 ・住民生活の環境向上支援 (活動プログラム) ・ASUFOR 啓蒙普及モニタリング体制の確立、実施 ・保健衛生教育の実施 ・生産活動多様化プログラム活動の継続支援
	予定	4	5	6	7	8		
2-(1) ASUFOR の定着度合いをモニタリングし、必要な対策を講じる	予定							
	実施	4	5	6	7	8		
4-(1) 営業、畜産事業のための住民参加を支援する	予定							
	実施	4	5	6	7	8		
4-(2) 対象サイトへのインパクト調査を実施する	予定							
	実施	4	5	6	7	8		
5-(1) 全サイトに対して衛生啓蒙普及研修を実施する	予定							
	実施	4	5	6	7	8		
5-(2) 対象サイトに対してシネバス上映会を実施する	予定							
	実施	4	5	6	7	8		
カウンターパートへの技術移転進捗状況								
3 プリガードの地方職員は自発的に ASUFOR 啓蒙普及を開始しており、ASUFOR 全国展開に向けた意識の芽生えが感じられる。ただ、まだ自発的な活動に至っていないプリガードもあり、今後は積極的なプリガードをモデルとして、全国のプリガードが積極的な活動を開始するよう指導していく。								

プロジェクト事業進捗報告書：深井善雄／副総括・住民組織化
 成果（期間：9/2005～12/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
2 水管理委員会が適正に運営される	2.2 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される	2-1 第1,2,3-1サイトにおけるASUFORの定着度を確認する	・ASUFORの稼働状況について確認し、善後策を検討した ・交通事情が悪いサイトに対しては昼間の上映会実施で対応した ・インパクト調査については9月末および11月下旬において、実施し、ファイナルレポートにおいて報告する	・ASUFORが円滑に機能していないサイトがあった ・シネバス上映についてはサイトの事情により、実施できなかったサイトがあった ・それ以外の項目は当初の目標を達成した
	2.5 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる			
	2.6 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する			
	2.7 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が関与される			
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4.3 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①住民の生産活動への参加状況をモニタリングする		対策 CPに対して、モニタリングの徹底を求めた 効果（プラス/ マイナス） ・従量制への移行により、節水し始めている ・住民総会等を通じて、住民の水に関する管理意識が芽生え始めている（激論風景から） ・保健衛生教育、シネバスの効果として、水場の環境整備がなされ始めている
	4.4 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②住民の収入の向上度合いを確認する		
5 対象サイト住民の安全な水に関わる衛生習慣が改善される	5.1 各サイトのシネバス上映会に一定以上の住民が参加する	5-①グループ1から順次衛生啓蒙普及研修が実施される		
	5.2 住民の保健衛生意識に関する理解度が向上する	5-②グループ1から順次シネバスを開始する 5-③年度後半の水場の環境整備計画が立案し、実施する 5-④インパクト調査により、住民の理解度を確認する		

プロジェクト事業進捗報告書2：深井善雄／副総括・住民組織化

成果に向けての事業進捗状況（期間：9/2005～12/2005、PDM 成果）

事業進捗状況		期間中直面した問題				次段階の目的と活動
活動	予定	9	10	11	12	(目的:DEMに移行) ・ASUFORの継続（モニタリング体制確立） ・住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム:DEMによる) ・ASUFOR啓蒙普及サイトのモニタリング体制の確立、実施 ・生産活動多様化プログラム活動の継続支援
	実施	9	10	11	12	
2① ASUFORの定着度合いをモニタリングし、必要な対策を講じる	予定>				特に問題なし
	実施	—————>				
4① 管農、畜産事業のための住民参加を支援する	予定>				
	実施	—————>				
4② 対象サイトへのインパクト調査を実施する	予定	>			
	実施		—————>			
5① 全サイトに対して衛生啓蒙普及研修を実施する	予定	>			
	実施		—————>			
5② 対象サイトに対してシネバス上映会を実施する	予定	>			
	実施		—————>			
カウンターパートへの技術移転進捗状況 プリガードの人事異動があり、新たな職員に対するASUFOR啓蒙普及の必要性が生じた。ただし、時間的にすでに余裕がないため、プロジェクト終了後にしかるべき職員が、再度研修を行うことになる。すでに研修を受け、実践の場で活躍している地方職員は多数おり、特に問題はないと考えるが、予算、人力的な限界から、フォローアップがどの程度なされるのか、懸念される。						

プロジェクト事業進捗報告書1：井上 茂／村落開発1（営農）
 成果（期間：4/2005～8/2005）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因	
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4.1 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①TAIBA NDIAYE において営農圃場の営農活動を開始する	左項についてすべて予定とおり実施された	日本人専門家不在中の肥料施肥判断に誤りがあり、野菜の一部が枯れたが、その要因はCPの判断ミスであった	
	4.2 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②MOUKH MOUKH において営農が開始される			
	対策				
	施肥当時の状況を確認し、適切な施肥方法を指導した				
効果（プラス/ マイナス）				・ 野菜は枯れたが、施肥に慣れて、良い教訓となった	

プロジェクト事業進捗報告書2：井上 茂／村落開発1（営農）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2005～8/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況					期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	4	5	6	7		
4-(1) TAIBA NDIAYE において営農事業を開始する	予定	●	●	●	●	●	(目的) ・ 住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム) ・ 生産活動多様化プログラム活動の継続 ・ 農業と生活と水の関連性を普及し、水の利用の重要性を啓蒙普及していく
4-(2) MOUKH MOUKH において営農活動を開始する	予定	●	●	●	●	●	
	実施	●	●	●	●	●	
	実施	●	●	●	●	●	
カウンターパートへの技術移転進捗状況 カウンターパートが正式に配置され、積極的な連携が始まっている。ただ、カウンターパートは常に現場にいられるわけではなく(他の業務も兼務)、細かなサポートはできていない。栽培参加者への研修も行っており、サイトの自立に向けて、さらなる指導が必要である。							

プロジェクト事業進捗報告書 1：井上 茂/村落開発 1（営農）
 成果（期間：9/2005～12/2005）（成果は PDM における成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4.3 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①TAIBA NDIYAE において営農現場の営農活動が継続する	左項についてすべて予定とおり実施された	日本人専門家不在中の肥料施肥判断に誤りがあり、野菜の一部が枯れたが、その要因は CP の判断ミスであった
	4.4 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②MOUKH MOUKH において営農が継続する	また、MBEYENE-NEGUE において、地表水を利用した生産活動を開始し、成果が得られた。	
				対策
				施肥当時の状況を確認し、適切な施肥方法を指導した
				効果（プラス/ マイナス）
				・ 野菜は枯れたが、施肥に関して、良い教訓となった

プロジェクト事業進捗報告書 2：井上 茂/村落開発 1（営農）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：9/2005～12/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況					期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	9	10	11	12		
4(1) TAIBA NDIAYE において営農事業を開始する	予定	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンターパートとして、地方職員が配置され、TAIBA NDIAYE、MOUHK MOUKH をフォローしている職員は非常にモチベーションが高まった ・ 女性参加者は家事との兼ね合いで、時間が制約される ・ 施肥の失敗で一部野菜が枯れた 	(目的:CP に引継ぎ) ・ 住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム:CP に引継ぎ) ・ 生産活動多様化プログラム活動の継続 ・ 農業と生活と水の関連性を普及し、水の利用の重要性を CP によって啓蒙普及を継続していく
4(2) MOUKH MOUKH において営農活動を開始する	予定	●	●	●	●		
カウンターパートへの技術移転進捗状況 カウンターパートが正式に配置され、積極的な連携が始まっている。ただ、カウンターパートは常に現場にいられるわけではなく(他の業務も兼務)、細かなサポートはできていない。栽培参加者への研修も行っており、サイトの自立に向けて、さらなる努力を図っているが、公的な人員、予算の拠出は活動の継続に必要である。							

プロジェクト事業進捗報告書1：永沼俊道／水資源
 成果（期間：10/2005～12/2005）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定されていた目標を達成できなかった場合とその原因
1. 行政、村落住民および民間業者の連携による給水施設維持管理システムが構築される。	1-4 対象地域で行政側により年に1回の割合で水質が検査される	DGPREの作成するモニタリング報告書の解析	DGPRE 毎年水質検査を実施していることが確認された。プロジェクト側より解析に関する改善を提案し、改善の為の協議が継続された。	
3. 水利用ガイドラインに沿った水利用が行なわれる。	3-1. 対象サイトで月に1度の割合で井戸の揚水量が検査される。	オペレータに運転を記録するように指導する。	グループ1およびグループ2のサイトのオペレータに対し日常業務における揚水量の記録についての指導を行った。	対策
	3-2. 対象サイトのオペレータと水管理委員が水利用ガイドラインについて説明できる	対象サイトのオペレータ、及び水管理委員会に説明する。	対象サイトグループ3に対し、水利用ガイドラインに沿った水利用に関する説明を行った。	インパクト（プラス/マイナス）

プロジェクト事業進捗報告書2：永沼俊道／水資源
 成果に向けての事業進捗状況（期間：10/2005～12/2005、PDM 成果）

事業進捗状況								期間中に直面した問題	次段階の目標と活動
活動	予定	10	11	12	1	2	3	国内支援	(目的) ・ 対象サイトのオペレータ、ASUFORが水利用ガイドラインを理解した上で、今後の村落開発に取り組んでいく。 ・ 井戸カメラを活用した地下水開発と水源管理を継続する。 (活動プログラム) ・ BPFカウンターパートによるASUFORへの水利用指導を継続する。 ・ 井戸更生作業に関わる井戸カメラの操作・使用状況の確認
	実施	10	11	12	1	2	3		
3-2 井戸更正に係る維持管理本部スタッフの能力を向上させる。	予定→							
	実施→							
3-3 対象サイトで地下水モニタリングシステムを強化・構築する。	予定→							
	実施→							
	予定								
	実施								
	予定								
	実施								
カウンターパートへの技術移転進捗状況									
水資源計画管理局（DGPRE）より選定されたカウンターパートは、最終セミナーにおいてプロジェクト活動の最終報告を行い、得られた成果、教訓を示した。同カウンターパートは、本プロジェクトの経験を生かし、今後のセネガル国内の水資源管理の中心的役割を担っていくことが期待される。									

プロジェクト事業進捗報告書 1：後藤雅哉／啓蒙普及（住民）

成果（期間：4/2005～8/2005）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合と原因
1 水管理委員会が適正に運営される	2-1 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される	2-①全グループに対して ASUFOR 啓蒙普及後のモニタリングを行う	左項の業務は全て、実施した	・モニタリングシートが定期的に提出されていないサイトが多いが、その理由は交通手段がなかったり、習慣づけされていない点にある
	2-2 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる	2-②モニタリングシートを収集し、記入方法を指導する		
	2-3 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する			
	2-4 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が関与される	2-③自発的に ASUFOR 啓蒙普及を実施しているマタム、ルガ、ジガンショールのプリガードに対して、モニタリングを指示する		
				対策
				・プリガード職員に提出の徹底指導を行うよう指示した。
				効果（プラス/ マイナス）
				・モニタリングシートの記載が習慣付けられていないため、情報収集が困難である
				・モニタリングシートが定期的に収集されることにより、現場の状況が容易にわかるようになる

プロジェクト事業進捗報告書 2：後藤雅哉／啓蒙普及（住民）

成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2004～8/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況					期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	4	5	6	7		
2(1) 全サイトを対象として ASUFOR 稼働状況がモニタリングされる	予定					・遊牧民と農耕民の間で調整が図られないサイトがある ・モニタリングシートが定期的に提出されないサイトがある	(目的) ・ ASUFOR 定着後の成果の確認 ・ ASUFOR 関連項目(マニュアル、手法等)にかかる関連ドナー間の連携促進 (活動プログラム) ・ ASUFOR モニタリング体制の確立、実施 ・ ASUFOR 全国展開に向けた取り組み ・ 他関連プロジェクトとの連携促進
	実施						
2(2) ルガ、マタム、ジガンショールのプリガードによる独自 ASUFOR 啓蒙普及サイトをモニタリングする	予定						
	実施						
2(3) モニタリングシートから各サイトの状況を把握する	予定						
	実施						
2(4) モニタリングシートの提出状況が悪いサイトに対して、指導がなされる(プリガード職員を含む)	予定						
	実施						
カウンターパートへの技術移転進捗状況 DEM 本局職員および地方職員の ASUFOR 啓蒙普及活動における積極的な参加は非常に評価でき、経験が積み重なった結果、独自に任地で ASUFOR 啓蒙普及を始める職員(3名)が認められた。ASUFOR 全国展開に向けて、確実に ASUFOR 啓蒙普及技術の移転は進んでいることが伺える。							

プロジェクト事業進捗報告書1：後藤雅哉／啓蒙普及（住民）
 成果（期間：9/2005～12/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合と原因
2 水管理委員会が適正に運営される	2.2 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される	2-①全グループに対して ASUFOR 啓蒙普及後のモニタリングを行う	左項の業務は全て、実施した	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングシートが定期的に提出されていない件が多いが、その理由は交通手段がなかったり、習慣づけされていない点にある
	2.5 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる	2-②モニタリングシートを収集し、記入方法を指導する		
	2.6 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する	2-③自発的に ASUFOR 啓蒙普及を実施しているマタム、ルガ、ジガンショールのブリガードに対して、モニタリングを指示する		
	2.7 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が聞かされる			
				対策
				<ul style="list-style-type: none"> ブリガード職員に提出の徹底指導を行うよう指示した。
				効果（プラス/ マイナス）
				<ul style="list-style-type: none"> モニタリングシートの記載が習慣付けられていないため、情報収集が困難である モニタリングシートが定期的に収集されることにより、現場の状況が容易にわかるようになる

プロジェクト事業進捗報告書2：後藤雅哉／啓蒙普及（住民）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：9/2004～12/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況				期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	9	10	11		
2(1) 全サイトを対象として ASUFOR 稼働状況がモニタリングされる	予定	→			(目的：DEM による) ・ ASUFOR 定着後のモニタリング ・ ASUFOR 関連項目(マニュアル、手法等)にかかる関連ドナー間の連携促進の継続 (活動プログラム：DEM に移行) ・ ASUFOR モニタリング体制の確立、実施 ・ ASUFOR 全国展開に向けた取り組みの継続 ・ 他関連プロジェクトとの連携促進の継続
	実施→				
2(2) ルガ、マタム、ジガンショールのブリガードによる独自 ASUFOR 啓蒙普及活動をモニタリングする	予定	→			
	実施→				
2(3) モニタリングシートから各サイトの状況を把握する	予定	→			
	実施→				
2(4) モニタリングシートの提出状況が悪い件に対して、指導がなされる(ブリガード職員を含む)	予定	→			
	実施→				
カウンターパートへの技術移転進捗状況						
DEM 本局職員および地方職員の ASUFOR 啓蒙普及活動における積極的な参加は非常に評価でき、経験が積み重なった結果、独自に任地で ASUFOR 啓蒙普及を始める職員(3名)が認められた。ただし、最近人事異動が発令され、新たなブリガード長が誕生したため、再度 ASUFOR にかかる研修が必要となっている。すでに、ASUFOR を理解しているブリガード長も存在するため、彼らで人材育成は可能と判断する。また、ASUFOR 全国展開に向けて、確実に ASUFOR 啓蒙普及技術の移転は進んでいることが伺える。						

プロジェクト事業進捗報告書 1：折田 岩美／村落開発 2（放牧畜）
 成果（期間：4/2005～8/2005）（成果はPDMにおける成果に同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4-1 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①TAIBA NDIAYA において養鶏事業の継続状況が確認される	左項についてすべて予定とおり実施された	なし
	4-2 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②TAIBA NDIAYE において鶏卵を目的とする新規活動の継続状況が確認される		対策
		4-③MOUKH MOUKH において飼料作物生産に関する実証調査が実施される		なし
		4-④MOUKH MOUKH の養鶏事業の継続状況が確認される		効果（プラス/ マイナス）
	4-⑤MOUKH MOUKH において優良品種が投入された継続状況が確認される	4-⑥MOUKH MOUKH において飼料木が植林される		<ul style="list-style-type: none"> ・ 養鶏事業は利益を計上しており、住民の収入は向上している一方、死亡率が向上し始めており、指導を徹底する ・ ASUFOR では各種活動に対して特別水料金の設定に加えて、一部資金を拠出している ・ 事業の拡大に伴い、人員が不足し始め、人材育成を目的とした隣宇教室が始まっている

プロジェクト事業進捗報告書 2：折田 岩美／村落開発 2（放牧畜）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2005～8/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況					期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	4	5	6	7		
4(1) TAIBA NDIYA において養鶏事業の評価を行う	予定	カウンターパートは配置されているものの、獣医であるため、利益を追求する事業に関しては有用なアドバイスを得にくい状況にある。	(目的) ・ 住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム) ・ 生産活動多様化プログラム活動(養鶏事業)のフォローアップ、継続 ・ 問題が発生した場合の迅速活適切な対応 ・ MOUKH MOUKH における牛関連事業の継続 ・ MOUKH MOUKH における飼料生産プログラムの実証、提案
4(3) TAIBA NDIAYE において鶏卵生産事業を継続調査する	予定		
4(4) MOUKHMOUKH において養鶏事業のフォローアップを行う	予定		
4(5) MOUKHMOUKH において牛を継続調査する	予定		
4(6) MOUKH MOUKH において飼料作物生産実証を実施する	予定		
	実施		
カウンターパートへの技術移転進捗状況							
カウンターパートが獣医であるため、養鶏事業等に関するノウハウはきわめて希薄である。そのため、今後は、プロジェクトの成果をカウンターパートに見せつつ、住民を中心に技術移転を図って行く。他方、営農カウンターパートは非常に積極的に参画していることから、飼料作物等の対応は一部営農担当が担っている。							

プロジェクト事業進捗報告書1：折田 岩美/村落開発2（放牧畜）
 成果（期間：9/2005～12/2005）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因	
4 実証サイトにおける生産活動が多様化する	4-3 水管理委員会事務局が生産活動への資金支援を行う	4-①TAIBA NDIAYAにおいて養鶏事業の継続状況が確認される	左項についてすべて予定とおり実施された	なし	
	4-4 生産活動多様化プログラムに参加している住民収入が向上する	4-②TAIBA NDIAYEにおいて鶏卵を目的とする新規活動の継続状況が確認される			対策
		4-③MOUKH MOUKHにおいて飼料作物生産に関する実証調査が実施される			なし
		4-④MOUKH MOUKHの養鶏事業の継続状況が確認される			効果（プラス/ マイナス）
	4-⑤MOUKH MOUKHにおいて優良品種が投入された継続状況が確認される	4-⑥MOUKH MOUKHにおいて飼料木が植林される		<ul style="list-style-type: none"> 養鶏事業は利益を計上しており、住民の収入は向上している一方、死亡率が向上し始めており、指導を徹底する ASUFORでは各種活動に対して特別水料金の設定に加えて、一部資金を拠出している 事業の拡大に伴い、人員が不足し始め、人材育成を目的とした隣宇教室が始まっている 	

プロジェクト事業進捗報告書2：折田 岩美/村落開発2（放牧畜）
 成果に向けての事業進捗状況（期間：9/2005～12/2005、PDM成果）

活動	事業進捗状況					期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	9	10	11	12		
4-(1) TAIBA NDIYAにおいて養鶏事業の評価を行う	予定	●	●	●	●	カウンターパートは配置されているものの、獣医であるため、利益を追求する事業に関しては有用なアドバイスを得にくい状況にある。	(目的：CPによる) ・ 住民による生産活動多様化活動の継続 (活動プログラム：CPによる) ・ 生産活動多様化プログラム活動(養鶏事業)のフォローアップ、継続 ・ 問題が発生した場合の迅速活適切な対応 ・ MOUKH MOUKHにおける牛関連事業の継続 ・ MOUKH MOUKHにおける飼料生産プログラムが継続される ・ MBEYENE-NEGUEにおいて飼料作物生産が継続される
4-(3) TAIBA NDIAYEにおいて鶏卵生産事業を継続調査する	予定	●	●	●	●		
4-(4) MOUKHMOUKHにおいて養鶏事業のフォローアップを行う	予定	●	●	●	●		
4-(5) MOUKHMOUKHにおいて牛を継続調査する	予定	●	●	●	●		
4-(6) MOUKH MOUKHにおいて飼料作物生産実証を実施する	予定	●	●	●	●		
	実施	●	●	●	●		
	実施	●	●	●	●		
	実施	●	●	●	●		
カウンターパートへの技術移転進捗状況							
カウンターパートが獣医であるため、実業面に関するノウハウはきわめて希薄である。そのため、今後は、現場に強い営農カウンターパートと住民を中心に事業を展開していくことになる。特に飼料作物生産は住民の利益として、認知され始めており、営農カウンターパートも非常に積極的に参画している。コン雄後の事業拡大が期待される。他方、サイトが遠隔地であることから、サポートは容易でなく、今後の予算確保が課題といえる。							

プロジェクト事業進捗報告書1：翠川清子／フォローアップ・標準マニュアル
 成果（期間：4/2005～6/2005）（成果はPDMにおける成果と同じ）

成果	指標	期間内目標	期間内実施事項	予定された目標を達成できなかった場合とその原因
1 行政、村落住民および民間業者の連携による給水施設維持管理システムが構築される。	1-5 持続的な水利用体制の構築に必要な標準マニュアル（ドラフト）が作成される。	1-①マニュアル標準化にかかる具体的な活動内容と活動成果が明確化され標準化作業が開始される。	1-①標準マニュアル協議会において類似プロジェクト代表者らと活動内容および活動スケジュール等に関する協議を行った。上記に基づき、現地再委託先との具体的な活動内容の協議および調整を行った。 2-①セ国側独自 ASUFOR 啓蒙サイトのモニタリング・フォローアップ対象23サイトを選定し、各サイトの現況調査を行い、モニタリング・フォローアップ体制を整備した。 2-②DEM 本局職員および維持管理センター長とともに現況調査およびASUFOR 活動強化のためのフォローアップを行った。	・ 時間の都合により、モニタリング・フォローアップ方法と報告書シートに関し、現場での指導が十分に出来なかった。
2 水管理委員会が適正に運営される。	2-1 対象サイトで従量制により、水料金が徴収される 2.2 対象サイトで水料金徴収率が80%以上となる 2.3 対象サイトで水管理委員会が銀行口座を開設する 2.4 対象サイトで定期的に水管理委員会の活動が監査される	2-①セネガル国側独自 ASUFOR 啓蒙サイトのモニタリング・フォローアップ体制が確立される。 2-②ASUFOR 既存啓蒙サイトのモニタリング・フォローアップをすることにより、ASUFOR 活動が強化される。		対策 ・ 電話および E メールにより、補足説明・指導を行った。
				効果（プラス/ マイナス） ・ フォローアップ活動を支援する事により、セ国側による主体的かつ継続的なフォローアップ体制確立のための基礎が整備された。

プロジェクト事業進捗報告書2：翠川清子／フォローアップ・標準マニュアル
 成果に向けての事業進捗状況（期間：4/2005～6/2005、PDM 成果）

活動	事業進捗状況			期間中直面した問題	次段階の目的と活動
	予定	4	5		
	実施	4	5	6	
1-(1)標準マニュアルに関し、類似プロジェクトとの活動内容および活動スケジュール等に関する協議を行う。	予定	▶		・ 今回調査対象 23 サイトにおいては、給水施設の老朽化等の障害により ASUFOR 導入後もその運営がままならない例がいくつか見られた。給水施設の順調な稼働は ASUFOR 運営前提条件であり、施設面への同国側による対応は ASUFOR 全国展開に向けた課題となる。 (目的) ・ 標準マニュアル（ドラフト）を完成させる。 ・ ASUFOR モニタリング・フォローアップ体制の確立と継続的な実施 (活動) ・ マニュアル標準化作業の継続 ・ ASUFOR モニタリング・フォローアップの計画・実施にかかる指導
	実施		————▶		
1-(2)標準マニュアル化に関し、現地再委託先との作業内容の協議および調整を行う。	予定	▶		
	実施		————▶		
2-(1)セ国側独自 ASUFOR 啓蒙サイトのモニタリング・フォローアップ対象サイトを選定する。	予定	▶		
	実施		————▶		
2-(2)維持管理センター長と共に対象サイトの現況調査およびフォローアップ内容の検討を行う。	予定	▶		
	実施		————▶		
2-(3)今後のモニタリング・フォローアップ計画および活動内容について、維持管理センター長への指導を行う。	予定	▶		
	実施		————▶		
カウンターパートへの技術移転進捗状況					
ASUFOR モニタリング・フォローアップの計画・実施方法にかかる指導を行うことにより、主体的・継続的な ASUFOR 啓蒙普及活動に繋がる技術移転がなされた。					

15. JICA 専門家業務日誌

15-1 JICA 専門家業務日誌（第1年次）

現地調査 (現地調査) 調査業務日誌 (平成15年1-2月分)

1. 調査団名		セネガル国 安全な水とコミュニティ活動支援計画		調査業務日誌		平成15年1-2月分		石井 信行	
2. 当月の調査業務予定		1) インセプション説明・協議		2) プロジェクトの立上げ及び調査準備		3) プロジェクト開始に関するセミナーの開催		石井 信行	
日	月	日	曜日	天候	宿泊地	行程	調査業務の概要	戻り又は責任者印	石井 信行
1	1/30	木	晴	Paris	Tokyo→Paris	東京発		受理日付	平成 年 月 日
2	1/31	金	曇	Dakar	Paris→Dakar	Dakar 着		提出日付	平成15年2月28日
3	2/1	土	晴	Dakar	-	-	協議用資料整理、調査用資料収集・作成準備	担当業務	総括/啓蒙・普及(行政)
4	2/2	日	晴	Dakar	-	-	団内打合せ、調査用資料収集・作成準備	団員氏名	石井 信行
5	2/3	月	晴	Dakar	-	-	JICA 表彰、大使館表彰		
6	2/4	火	晴	Dakar	-	-	DEM 表彰、インセプション説明・協議		
7	2/5	水	晴	Dakar	-	-	DEM 協議、サイト調査準備		
8	2/6	木	晴	St.Louis	Dakar→St.Louis	REGFOR 表彰、ルガ維持管理本部協議、サイト調査			
9	2/7	金	晴	St.Louis	-	-	サイト調査 (Mbayene negu, Nboyenane)		
10	2/8	土	晴	St.Louis	-	-	サイト調査 (Thiyoune, Mbayne thiasé)		
11	2/9	日	曇	St.Louis	-	-	サイト調査、DEM ルガ州支所協議、ルガ維持管理本部調査		
12	2/10	月	晴	Dakar	St.Louis→Dakar	-	ルガ維持管理本部協議、REGFOR 協議		
13	2/11	火	小雨	Dakar	-	-	調査資料整理、大使館報告、DEM 協議		
14	2/12	水	晴	Dakar	-	-	調査資料整理、団内打合せ		
15	2/13	木	晴	Dakar	-	-	DEM 協議、DEHA 協議、調査資料整理		
16	2/14	金	晴	Dakar	-	-	DEM 協議、調査資料整理、JICA 報告		
17	2/15	土	晴	Kaolack	Dakar→Kaolack	-	サイト調査 (Ngolngning, Kaba Diack)		
18	2/16	日	晴	Kaolack	-	-	サイト調査 (Darou Marnane Grosse, Medina Sabakh)		
19	2/17	月	晴	Kaolack	-	-	サイト調査 (Segre Secco, Sagna)		
20	2/18	火	晴	Dakar	Kaolack→Dakar	-	DEM カオラック州支所協議、カオラック維持管理本部調査		
21	2/19	水	晴	Dakar	-	-	DHA 協議、DEM 協議		
22	2/20	木	晴	Dakar	-	-	調査資料整理、団内打合せ		
23	2/21	金	晴	Dakar	-	-	サイト選定に関する DEM 協議		
24	2/22	土	晴	Dakar	-	-	DEM 協議、セミナー資料作成		
25	2/23	日	晴	Dakar	-	-	セミナー資料作成		
26	2/24	月	晴	Dakar	-	-	セミナーリハーサル、セミナー会場準備		
27	2/25	火	晴	Dakar	-	-	プロジェクト開始に関するセミナー開催、団内打合せ		
28	2/26	水	晴	Dakar	-	-	資料整理、吉川・後藤婦国 JICA 報告		
29	2/27	木	晴	Dakar	-	-	インセプション・レポート資料作成		
30	2/28	金	晴	Dakar	-	-	JICA 報告、インセプション・レポート資料作成、DEM 協議		

(注) ① この業務日誌は業務従事者の全期間に亘って記入すること。なお、休日はその旨記載するだけでよい。
 ② 業務従事期間が30日未満の場合は1枚に記入し、30日間以上の場合は各月毎に1枚を用いて記入すること。
 ③ 当月の調査業務の予定は主要事項を簡潔に記入すること。
 ④ 調査業務実績後は毎月1日に提出し調査又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑤ 団員は毎月1日に提出し調査又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑥ 書式の()のうち該当しない箇所は「-」で抹消すること。

現地調査 (現地調査) 調査業務日誌 (平成15年3月分)

1. 調査団名		セネガル国 安全な水とコミュニティ活動支援計画		調査業務日誌		平成15年3月分		石井 信行	
2. 当月の調査業務予定		4) プロジェクトの立上げ及び調査準備		5) 2年次活動計画の策定		6) インセプション・レポート(ドラフト)の作成		石井 信行	
日	月	日	曜日	天候	宿泊地	行程	調査業務の概要	戻り又は責任者印	石井 信行
31	3/1	土	晴	Dakar	-	-	レポート資料作成	受理日付	平成 年 月 日
32	3/2	日	晴	Dakar	-	-	レポート資料作成	提出日付	平成15年3月13日
33	3/3	月	晴	Dakar	-	-	団内打合せ、DEM 協議	担当業務	総括/啓蒙・普及(行政)
34	3/4	火	晴	Dakar	-	-	インセプション・レポート作成	団員氏名	石井 信行
35	3/5	水	晴	Dakar	-	-	インセプション・レポート作成		
36	3/6	木	晴	Dakar	-	-	インセプション・レポート作成		
37	3/7	金	晴	Dakar	-	-	RESUFOR セミナー参加		
38	3/8	土	晴	Dakar	-	-	インセプション・レポート作成		
39	3/9	日	晴	Tambacounda	Dakar→Tamba	移動			
40	3/10	月	晴	Dakar	Tamba→Dakar	タンバングンダ維持管理本部協議、移動			
41	3/11	火	晴	Dakar	-	-	団内打合せ、DEM 協議		
42	3/12	水	晴	Dakar	-	-	資料整理、報告書作成		
43	3/13	木	晴	Dakar	Dakar→Paris	JICA 報告、Dakar 発			
44	3/14	金	晴	機内	Paris→	パリ乗継ぎ			
45	3/15	土	晴	機内	→Tbkyo	東京着			

(注) ① この業務日誌は業務従事者の全期間に亘って記入すること。なお、休日はその旨記載するだけでよい。
 ② 業務従事期間が30日未満の場合は1枚に記入し、30日間以上の場合は各月毎に1枚を用いて記入すること。
 ③ 当月の調査業務の予定は主要事項を簡潔に記入すること。
 ④ 調査業務実績後は毎月1日に提出し調査又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑤ 団員は毎月1日に提出し調査又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑥ 書式の()のうち該当しない箇所は「-」で抹消すること。

現地調査 (現地調査) 調査業務日誌 (平成15年2月分)

1. 調査団名：セネガル国 安全な水とコミュニティ活動支援計画		調査業務の概要		石井 慎行	
2. 当月の調査業務予定		調査業務の概要		石井 慎行	
日	月	日	天候	宿泊地	行程
1	2/9	日	晴	Dakar	Dakar
2	2/10	月	晴	Dakar	Dakar
3	2/11	火	曇/雨	Dakar	Dakar
4	2/12	水	晴	Dakar	Dakar
5	2/13	木	晴	Dakar	Dakar
6	2/14	金	晴	Dakar	Dakar
7	2/15	土	晴	Dakar	Dakar
8	2/16	日	晴	Dakar	Dakar
9	2/17	月	晴	Kaolack	Dakar→Kaolack
10	2/18	火	晴	Kaolack	Kaolack
11	2/19	水	晴	Kaolack	Kaolack
12	2/20	木	晴	Dakar	Kaolack→Dakar
13	2/21	金	晴	Dakar	Dakar
14	2/22	土	晴	Dakar	Dakar
15	2/23	日	晴	Dakar	Dakar
16	2/24	月	晴	Dakar	Dakar
17	2/25	火	晴	Dakar	Dakar
18	2/26	水	晴	Dakar	Dakar
19	2/27	金	晴	Dakar	Dakar
20	2/28	土	晴	Dakar	Dakar

(注) ① この業務日誌は業務従事者の全期間に亘って記入すること。なお、休務日はその旨記載するだけでよい。
 ② 業務従事期間が30日間未満の場合は1枚に記入し、30日間以上の場合は各月別に1枚を用いて記入すること。
 ③ 当月の調査業務の予定は主要事項を簡潔に記入すること。
 ④ 調査業務実績表は毎月の業務終了後7箇所に記入すること。
 ⑤ 調査業務実績表は毎月1日に提出し、調査又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑥ 番式の()のうち該当しない箇所は「-」で抹消すること。

現地調査 (現地調査) 調査業務日誌 (平成15年3月分)

1. 調査団名：セネガル国 安全な水とコミュニティ活動支援計画		調査業務の概要		石井 慎行	
2. 当月の調査業務予定		調査業務の概要		石井 慎行	
日	月	日	天候	宿泊地	行程
21	3/1	土	晴	Dakar	Dakar
22	3/2	日	晴	Dakar	Dakar
23	3/3	月	晴	Dakar	Dakar
24	3/4	火	晴	Dakar	Dakar
25	3/5	水	晴	Dakar	Dakar
26	3/6	木	晴	Louga	Dakar→Louga
27	3/7	金	晴	Dakar	Louga→Dakar
28	3/8	土	晴	Dakar	Dakar
29	3/9	日	晴	Kaolack	Dakar→Kaolack
30	3/10	月	晴	Kaolack	Kaolack
31	3/11	火	晴	Kaolack	Kaolack
32	3/12	水	晴	Dakar	Kaolack→Dakar
33	3/13	木	晴	機中	Dakar→パリ
34	3/14	金	一	機中	パリ→
35	3/15	土	一	一	東京

(注) ① この業務日誌は業務従事者の全期間に亘って記入すること。なお、休務日はその旨記載するだけでよい。
 ② 業務従事期間が30日間未満の場合は1枚に記入し、30日間以上の場合は各月別に1枚を用いて記入すること。
 ③ 当月の調査業務の予定は主要事項を簡潔に記入すること。
 ④ 調査業務実績表は毎月の業務終了後7箇所に記入すること。
 ⑤ 調査業務実績表は毎月1日に提出し、調査又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑥ 番式の()のうち該当しない箇所は「-」で抹消すること。

1. 調査団名：セネガル国 安全な水とコミュニティ活動支援計画		団長又は責任者印		石井 信行		
2. 当月の調査業務予定		受理日付		平成 年 月 日		
1) インセンティブ説明・協議		提出日付		平成15年2月26日		
2) プロジェクトの立上げ及び調査準備		担当業務		普及・啓蒙(住民)		
3) プロジェクト開始に関するセミナーの開催		団員氏名		後藤 雅哉		
3. 調査業務実績表						
日順	月/日	曜日	天候	宿泊地	行程	調査業務の概要
1	1/30	木	晴	Paris	Tokyo→Paris	東京発
2	1/31	金	曇・雪	Dakar	Paris→Dakar	Dakar着
3	2/1	土	晴	Dakar	-	協議用資料整理、調査用資料収集・作成準備
4	2/2	日	晴	Dakar	-	団内打合せ
5	2/3	月	晴	Dakar	-	JICA表敬、大使館表敬
6	2/4	火	晴	Dakar	-	DEM表敬、インセンティブ説明・協議
7	2/5	水	晴	Dakar	-	インベントリ準備
8	2/6	木	晴	St.Louis	Dakar→St.Louis	ティエヌ DEM表敬、ルーガ DEM表敬
9	2/7	金	晴	St.Louis	Louga→St.Louis	現地踏査
10	2/8	土	曇	St.Louis	Louga→St.Louis	現地踏査
11	2/9	日	晴	Dakar	Louga→Dakar	現地踏査
12	2/10	月	曇	Dakar	-	調査結果取りまとめ
13	2/11	火	雨	Dakar	-	団内打合せ、調査結果取りまとめ
14	2/12	水	曇	Dakar	-	DEM協議、調査結果取りまとめ
15	2/13	木	晴	Dakar	-	団内打合せ、インベントリ作成
16	2/14	金	晴	Dakar	-	インベントリ作成
17	2/15	土	曇	Dakar	-	-
18	2/16	日	晴	Dakar	-	-
19	2/17	月	晴	Kaolack	Dakar→Kaolack	KaolackDEM表敬
20	2/18	火	晴	Kaolack	Kaolack→Fatick	現地踏査
21	2/19	水	晴	Kaolack	Kaolack→Fatick	現地踏査
22	2/20	木	晴	Dakar	Kaolack→Dakar	現地踏査
23	2/21	金	曇	Dakar	-	インヴェントリ整理
24	2/22	土	晴	Dakar	-	-
25	2/23	日	晴	Dakar	-	-
26	2/24	月	晴	Dakar	-	団内打合せ、セミナー準備
27	2/25	火	晴	Dakar	-	セミナー実施
28	2/26	水	晴	織中	Dakar→Paris	JICA表敬 移動日
29	2/27	木	晴	織中	Paris→	移動日
30	2/28	金	晴	---	-Tokyo	移動日

(注) ① この業務日誌は業務従事者の全期間に亘って記入すること。なお、休祭日はその旨記載するだけでよい。
 ② 業務従事期間が30日間未満の場合は1枚に記入し、30日間以上の場合は各月毎に1枚を用いて記入すること。
 ③ 当月の調査業務の予定は主要事項を簡潔に記入すること。
 ④ 調査業務実績表は毎月の業務終了後に簡潔に記入すること。
 ⑤ 団員は翌月1日に提出し団長又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑥ 書式の()のうち該当しない箇所は「-」で抹消すること。

1. 調査団名：セネガル国 安全な水とコミュニティ活動支援計画		団長又は責任者印		石井 信行		
2. 当月の調査業務予定		受理日付		平成15年 月 日		
1) インセンティブ説明・協議		提出日付		平成15年 月 日		
2) プロジェクトの立上げ準備		担当業務		普及・啓蒙(住民)		
3. 調査業務実績表		団員氏名		後藤 雅哉		
日順	月/日	曜日	天候	宿泊地	行程	調査業務の概要
21	3/1	土	晴	Dakar	Dakar	インセンティブレポート作成
22	3/2	日	晴	Dakar	Dakar	資料整理
23	3/3	月	晴	Dakar	Dakar	DEM打ち合わせ、インセンティブレポート作成
24	3/4	火	晴	Dakar	Dakar	DEM打ち合わせ、インセンティブレポート作成
25	3/5	水	晴	Dakar	Dakar	DEM打ち合わせ、次年度活動協議
26	3/6	木	晴	Louga	Dakar→Louga	ルガサイト視察
27	3/7	金	晴	Dakar	Louga→Dakar	ルガサイト視察
28	3/8	土	晴	Dakar	Dakar	調査結果整理
29	3/9	日	晴	Kaolack	Dakar→Kaolack	資料整理
30	3/10	月	晴	Kaolack	Kaolack	次年度活動協議、ローカルコンサルタント協議
31	3/11	火	晴	Kaolack	Kaolack	次年度活動協議
32	3/12	水	晴	Dakar	Kaolack→Dakar	次年度活動協議
33	3/13	木	晴	織中	Dakar→パリ	JICAセネガル事務所活動報告 帰国
34	3/14	金	---	---	パリ→	移動
35	3/15	土	---	---	東京	帰国

(注) ① この業務日誌は業務従事者の全期間に亘って記入すること。なお、休祭日はその旨記載するだけでよい。
 ② 業務従事期間が30日間未満の場合は1枚に記入し、30日間以上の場合は各月毎に1枚を用いて記入すること。
 ③ 当月の調査業務の予定は主要事項を簡潔に記入すること。
 ④ 調査業務実績表は毎月の業務終了後に簡潔に記入すること。
 ⑤ 団員は翌月1日に提出し団長又は責任者は点検し捺印すること。
 ⑥ 書式の()のうち該当しない箇所は「-」で抹消すること。

現地調査
(現地作業)

調査業務日誌(平成15年1-2月分)

1. 調査団名: セネガル国 安全な水とコミュニティ活動支援計画(第一年度)		調査業務日誌	調査業務の概要	団員又は 責任者印	石井 信行				
2. 当月の調査業務予定									
1) インセンション・レポート説明・協議									
2) プロジェクトの立上げ及び対象候補サイト調査									
3) ルガ維持管理本報トレーニングプログラム現況調査									
4) プロジェクト開始に関するセミナーの開催									
3. 調査業務実施表									
日	月	日	曜日	天候	宿泊地	行程	調査業務の概要	団員又は 責任者印	石井 信行
1	1	30	木	晴	Paris	Tokyo→Paris	東京発		平成 年 月 日
2	1	31	金	曇・雪	Dakar	Paris→Dakar	ダカール着		平成15年2月26日
3	2	1	土	晴	Dakar		総務用資料整理、調査用資料収集・作成準備		給水施設
4	2	2	日	晴	Dakar		団内打合せ		
5	2	3	月	晴	Dakar		JICA 表敬、大使館表敬		
6	2	4	火	晴	Dakar		DEM 表敬、インセンション説明・協議		
7	2	5	水	晴	Dakar		事務所設営準備、サイト調査準備		
8	2	6	木	晴	St. Louis	Dakar→St. Louis	REGFOR 協議、ルガ維持管理本報協議、Moukhleoukh 調査		
9	2	7	金	晴	St. Louis		Mbeynehogue、Mboyenane 調査		
10	2	8	土	晴	St. Louis		Thiayenne、MbayoneThiasde 調査		
11	2	9	日	晴	St. Louis		Bakhaya 調査、ルガ維持管理本報セミナー意見調査		
12	2	10	月	曇	Dakar	St. Louis→Dakar	ルガ維持管理本報協議、REGFOR 協議		
13	2	11	火	曇/雨	Dakar		DEM 協議、サイト調査資料整理		
14	2	12	水	曇	Dakar		資料整理		
15	2	13	木	曇	Dakar		DEM 協議、サイト調査資料整理		
16	2	14	金	晴	Dakar		DEM 協議、サイト調査準備		
17	2	15	土	晴	Kaolack	Dakar→Kaolack	Ngoifanang、KabaDiack 調査		
18	2	16	日	晴	Kaolack		DaroullamaneGossas、MedinaSabakh 調査		
19	2	17	月	晴	Kaolack		SegreSecco、Sagna 調査		
20	2	18	火	晴	Dakar	Kaolack→Dakar	カオラック維持管理本部・ベルギープロジェクト協議		
21	2	19	水	晴	Dakar		DEM 協議、サイト調査資料整理、機材搬送監視		
22	2	20	木	晴	Dakar		DEM 協議、セミナー資料準備、REGFOR 協議		
23	2	21	金	晴	Dakar		DEM 協議、セミナー資料準備		
24	2	22	土	晴	Dakar		セミナー資料準備		
25	2	23	日	晴	Dakar		資料整理		
26	2	24	月	晴	Dakar		DEM 協議、セミナー会場準備		
27	2	25	火	晴	Dakar		キックオフセミナー		
28	2	26	水		機内	Dakar→	資料整理、JICA 報告		
29	2	27	木		機内	→Paris→	パリ乗継		
30	2	28	金			→Tokyo	東京着		

(注) ① この業務日誌は業務従事者の全期間に亘って記入すること。なお、休日はその旨記載するだけでよい。
 ② 業務従事期間が30日間未満の場合は1枚に記入し、30日間以上の場合は各月毎に1枚を用いて記入すること。
 ③ 当月の調査業務の予定は主要事項を別添に記入すること。
 ④ 調査業務実施表は毎月の業務終了後に別添に記入すること。
 ⑤ 団員は翌月1日に提出し、団長又は責任者は最終し捺印すること。
 ⑥ 形式の()のうち該当しない箇所は「-」で補填すること。